

バトン

おばあちゃんと愛ちゃん人形

4年 N・Aさん

私は、三年ぶりに母の実家がある愛媛に行った。久しぶりに会ったおばあちゃんは、元気だったが、思っていたよりも少し年をとっていた。その日は、プールに行って、その後にご飯を食べて帰った。

そして、その夜に私は愛ちゃん人形と出会った。愛ちゃん人形は、話した人のまねをする犬のぬいぐるみで、ひいおばあちゃんがしせつでさみしくないようにと、おばあちゃんがプレゼントしたものだ。愛ちゃんという名前は、亡くなったひいおばあちゃんの「愛子」から名付けられていた。おばあちゃんは、毎朝「おはよう」、毎晩「おやすみ」と話しているそうだ。私と妹は気に入っていっぱい話しかけて、いっぱいまねをさせて笑った。

人形といえば、圭のおばあちゃんもホームに入る前に亡くなったむすめのひな人形を、孫の圭、その友人のハッサン、白井さんにあげた。これをきっかけに、三人はそれぞれの家族の知らなかった姿や思いを知ることができた。

私も愛ちゃん人形をきっかけに、ひいおばあちゃんはぬりえが好きで、うまくできた作品はしせつのかべに飾ってもらっていたことをおばあちゃんから聞いた。そして、ひいおばあちゃんの部屋にはたくさんぬいぐるみがあったことを私は思い出した。

今、愛ちゃん人形の周りには、私と妹がおったおり紙がたくさんかざってある。愛ちゃん人形におばあちゃんが話す時、ひいおばあちゃんのこととこいつしよに、私と妹のことも思い出してくれたらしいな。

私は、愛ちゃん人形を通して圭と同じように、過去と未来のつながりを感じる事ができた。これからいろいろな人や物と出会い、出会った私はどんな大人になるのだろうか。そして、どんなものを次の人にわたせるだろうか。少し不安はあるけれど、これからの人生がとても楽しみだ。